校異源氏物語・かしは木

衛門のかむのきみかくのみなやみわたり給こと猶をこたらて年もかへりぬおと
ゝ北の方おほしなけくさまをみたてまつるにしひてかけはなれなむいのちかひ
なくつみをもかるへきことを思ふ心は心として又あなかちにこの世にはなれか
たくおしみとゝめまほしき身かはいはけなかりしほとより思ふ心ことにてなに
ことをも人にいまひときはまさらむとおほやけわたくしのことにふれてなのめ
ならす思ひのほりしかとその心かなひかたかりけりとひとつふたつのふしこと
に身を思ひおとしてしこなたなへての世中すさましうおもひなりてのちの世の
をこなひにほいふかくすゝみにしをおやたちの御うらみを思ての山にもあくか
れむみちのをもきほたしなるへくおほえしかはとさまかうさまにまきらはしつ
ゝすくしつるをつゐに猶世にたちまふへくもおほえぬ物思ひのひとかたならす
身にそひにたるはわれよりほかにたれかはつらき心つからもてそこなひつるに
こそあめれと思にうらむへき人もなし神仏をもかこたむ方なきはこれみなさる
へきにこそはあらめたれもちとせのまつならぬ世はつゐにとまるへきにもあら
ぬをかくひとにもすこしうちしのはれぬへきほとにてなけのあはれをもかけ給
人あらむをこそはひとつおもひにもえぬるしるしにはせめせめてなからへはを
のつからあるましき名をもたち我も人もやすからぬみたれいてくるやうもあら
むよりはなめしと心をい給らんあたりにもさりともおほしゆるいてむかしよろ
つのことといまはのとちめにはみなきえぬへきわさなり又ことさまのあやまちし
なけれは年ころものゝおりふしことにはまつはしならひ給にしかたのあはれも
いてきなんなとつれ　くに思つゝくるもうちかへしいとあちきなしなとかくほ
ともなくしなしつる身ならんとかきくらし思みたれて枕もうきぬ許人やりなら
すなかしそへつゝいさゝかひまありとて人　くたちさり給へるほとにかしこに
御ふみたてまつれ給いまはかきりになりにて侍ありさまはをのつからきこしめ
すやうもはへらんをいかゝなりぬるとたに御みゝとゝめさせ給はぬもことはり
なれといとうくも侍かなゝときこゆるにいみしうわなゝけはおもふこともみな
かきさして

いまはとてもえむけふりもむすほゝれたえぬおもひの猶やのこらむあはれ

とたにのたまはせよ心のとめて人やりならぬやみにまとはむみちのひかりにも
し侍らむときこえ給しゝうにもこりすまにあはれなることゝもをいひをこせ給
へりみつからもいまひとたひいふへきことなむとのたまへれはこの人もわらは
よりさるたよりにまいりかよひつゝみたてまつりなれたる人なれはおほけなき
心こそうたておほえ給へれいまはときくはいとかなしうてなく　く猶この御返
まことにこれをとちめにもこそ侍れときこゆれは我もけふかあすかの心地して
物心ほそけれはおほかたのあはれ許は思しらるれといと心うきことゝ思こりに
しかはいみしうなむつゝましきとてさらにかいたまはす御心本上のつよくつし
やかなるにはあらねとはつかしけなる人の御けしきのおり　くにまほならぬか
いとおそろしうわひしきなるへしされと御すゝりなとまかなひてせめきこゆれ
はしふ　くにかい給とりてしのひてよゐのまきれにかしこにまいりぬおとゝか
しこきをこなひ人かつらき山よりさうしいてたるまちうけたまひてかちまいら
せむとし給みすほうと経なともいとおとろ　くしうさはきたり人の申すまゝに
さま　くひしりたつけんさなとのおさ　くよにもきこえすふかき山にこもりた
るなとをもおとうとのきみたちをつかはしつゝたつねめすにけにくゝ心月なき
山ふしともなともいとおほくまいるわつらひ給さまのそこはかとなくものを心
ほそく思てねをのみ時　くなき給おむやうしなともおほくは女のりやうとのみ
うらなひ申けれはさることもやとおほせとさらにものゝけのあらはれいてくる
もなきにおもほしわつらひてかゝるくま　くをもたつね給なりけりこのひしり
もたけたかやかにまふしつへたましくてあらゝかにおとろ　くしくたらによむ
をいてあなにくやつみのふかき身にやあらむたらにのこゐたかきはいとけおそ
ろしくていよ　くしぬへくこそおほゆれとてやをらすへりいてゝこのしゝうと
かたらひ給おとゝはさもしりたまはすうちやすみたると人　くして申させ給へ
はさおほしてしのひやかにこのひしりとものかたりし給おとなひ給へれと猶は
なやきたる所つきてものわらひし給おとゝのかゝる物ともとむかひゐてこのわ
つらひそめ給しありさまなにともなくうちたゆみつゝをもり給へることまこと
にこの物のけあらはるへうねむし給へなとこまやかにかたらひ給もいとあはれ
なりかれきゝたまへなにのつみともおほしよらぬにうらなひよりけむ女のりや
うこそまことにさる御しうの身にそひたるならはいとはしき身をひきかへやむ
ことなくこそなりぬへけれさてもをほけなき心ありてさるましきあやまちをひ
きいてゝ人の御なをもたて身をもかへりみぬたくひむかしの世にもなくやはあ
りけると思なおすに猶けはひわつらはしうかの御心にかゝるとかをしられたて

まつりて世になからへむ事もいとまはゆくおほゆるはけにことなる御ひかりなるへしふかきあやまちもなきにみあはせたてまつりしゆふへのほとよりやかてかきみたりまとひそめにしたましひの身にもかへらすなりにしをかの院のうちにあくかれありかはむすひとゝめたまへよなといとよはけにからのやうなるさましてなきみわらひみかたらひ給宮もゝのをのみはつかしうつゝましとおほしたるさまをかたるさてうちしめりおもやせ給へらむ御さまのおもかけにみたてまつる心地して思やられ給へはけにあくかるらむたまやゆきかよふらむなといとゝしき心地もみたるれはいまさらにこの御ことよかけてもきこえしこの世はかうはかなくてすきぬるをなかき世のほたしにもこそと思なむいとおしき心くるしき御ことをたひらかにとたにいかてきゝをいたてまつらむみしゆめを心ひとつに思あはせて又かたる人もなきかいみしういふせくもあるかなゝとゝりあつめ思しみ給へるさまのふかきをかつはいとうたておそろしう思へとあはれはたえしのはすこの人もいみしうなくしそくめして御返み給へは御ても猶いとはかなけにおかしきほとにかい給て心くるしうきゝなからいかてかはたゝをしはかりのこらむとあるは

たちそひてきえやしなましうきことを思みたるゝけふりくらへにをくるへうやはとはかりあるをあはれにかたしけなしと思ふいてやこのけふりはかりこそはこのよのおもひいてならめはかなくもありけるかなといとゝなきまさり給て御返ふしなからうちやすみつゝかいたまふことのはのつゝきもなうあやしきとりのあとのやうにて

ゆくゑなきそらのけふりとなりぬともおもふあたりをたちはゝなれしゆふへはわきてなかめさせ給へとかめきこえさせたまはむ人めをもいまは心やすくおほしなりてかひなきあはれをたにもたえすかけさせ給へなとかきみたりて心地のくるしさまさりけれはよしいたうふけぬさきにかへりまいり給てかくかきりのさまになんともきこえ給へいまさらに人あやしと思あはせむをわか世のゝちさへ思こそくちおしけれいかなるむかしのちきりにていとかゝることしも心にしみけむとなく くゐさりいり給ぬれはれいはむこにむかへすへてすゝろことをさへいはせまほしうし給をことすくなにてもと思ふかあはれなるにえもいてやらす御ありさまをめのともかたりていみしくなきまとふおとゝなとのおほしたるけしきそいみしきやきのふけふすこしよろしかりつるをなとかいとよはけにはみえ給とさはき給なにか猶とまり侍ましきなめりときこえ給てみつからもない給宮はこのくれつかたよりなやましうし給けるをその御けしきとみたて

まつりしりたる人　くさはきみちておとゝにもきこえたりけれはおとろきてわたり給へり御心のうちはあなくちおしや思まする方なくてみたてまつらましかはめつらしくうれしからましとおほせと人にははけしきもらさしとおほせはけむさなとめしみすほうはいつとなくふたんにせらるれはそうとものなかにけむあるかきりみなまいりてかちまいりさはくよひとよなやみあかさせ給ひて日さしあかるほとにうまれたまひぬおとこ君ときゝ給にかくしのひたることのあやにくにいちしるきかほつきにてさしいてたまへらんこそくるしかるへけれ女こそなにとなくまきれあまたの人のみる物ならねはやすけれとおほすに又かく心くるしきうたかひましりたるにては心やすき方にものし給もいとよしかしさてもあやしやわか世とゝもにおそろしと思しことのむくひなめりこの世にてかく思かけぬことにむかはりぬれはのちのよのつみもすこしかろみなんやとおほす人はたしらぬことなれはかく心ことなる御はらにてするにいておはしたる御おほえいみしかりなんと思いとなみつかうまつる御うふやのきしきいかめしうおとろ　くし御かた　くさま　くにしいて給御うふやしなひよのつねのおしきついかさねたかつきなとの心はえもことさらに心　くにいとましさみえつゝなむ五日の夜中宮の御かたよりこもちの御前の物女はうのなかにもしな　くに思あてたるきは　くおほやけことにいかめしうせさせ給へり御かゆてとんしき五十くところ　くのきやう院のしもへちやうのめしつきところなにかのくまゝていかめしくせさせ給へり宮つかさ大夫よりはしめて院殿上人みなまいれり七夜はうちよりそれもおほやけさまなりちしのおとゝなと心ことにつかうまつり給へきにこのころはなにこともおほされてをほそうの御とふらひのみそありける宮たちかむたちめなとあまたまいり給おほかたのけしきもよになきまてかしつきゝこえ給へとおとゝの御心のうちに心くるしとおほすことありていたうもゝてはやしきこえ給はす御あそひなとはなかりけり宮はさはかりひわつなる御さまにていとむくつけうならはぬことのおそろしうおほされけるに御ゆなともきこしめさす身の心うきことをかゝるにつけてもおほしいれはさはれこのついてにもしなはやとおほすおとゝはいとよう人めをかさりおほせとまたむつかしけにおはするなとをとりわきてもみたてまつり給はすなとあれはおいしらへる人なとはいてやおろそかにもおはします哉めつらしうさしいてたまへる御ありさまのかはかりゆゝしきまてにおはしますをとうつくしみきこゆれはかたみゝにきゝ給てさのみこそはおほしへたつることもまさらめとうらめしうわか身つらくてあまにもなりなはやの御心つきぬよるなともこなたにはおほとのこもらすひる

つかたなとそさしのそき給世中のはかなきをみるまゝにゆくすゑみしかう物心
ほそくてをこなひかちになりにて侍れはかゝるほとのらうかはしき心ちするに
よりえまいりこぬをいかゝ御心ちはさはやかにおほしなりにたりや心くるしう
こそとて御き丁のそはよりさしのそき給へり御くしもたけ給てなをえいきたる
ましき心ちなむし侍るをかゝる人はつみもをもかなりあまになりてもしそれに
やいきとまると心み又なくなるともつみをうしなふこともやとなむ思はへると
つねの御けはひよりはいとおとなひてきこえ給をいとうたてゆゝしき御ことな
りなとてかさまてはおほすかゝることはさのみこそおそろしかなれとさてなか
らへぬわさならはこそあらめときこえ給御心のうちにはまことにさもおほしよ
りてのたまはゝさやうにてみたてまつらむはあはれなりなむかしかつみつゝも
ことにふれて心をかれたまはむか心くるしう我なからもえ思なおすましうゝき
こととうちましりぬへきをゝのつからをろかに人のみとかむることもあらむかい
と　くおしう院なとのきこしめさむこともわかをこたりにのみこそはならめ御
なやみにことつけてさもやなしたてまつりてましなとおほしよれと又いとあた
らしうあはれにかはかりとをき御くしのおひさきをしかやつさむことも心くる
しけれはなをつよくおほしなれけしうはおはせしかきりとみゆる人もたひらな
るためしちかけれはさすかにたのみあるよになむなときこえ給て御ゆまいり給
いといたうあおみやせてあさましうはかなけにてうちふしたまへる御さまおほ
ときうつくしけなれはいみしきあやまちありとも心よはくゆるしつへき御さま
かなとみたてまつり給山のみかとはめつらしき御ことたひらかなりときこしめ
してあはれにゆかしうおもほすにかくなやみたまふよしのみあれはいかに物し
給へきにかと御をこなひもみたれておほしけりさはかりよはり給へる人のもの
をきこしめさてひころへたまへはいとたのもしけなくなり給てとしころみたて
まつらさりしほとよりも院のいとこひしくおほえ給を又もみたてまつらすなり
ぬるにやといたうない給かくきこえ給さまさるへき人してつたへそうせさせ給
けれはいとたえかたうかなしとおほしてあるましきことゝはおほしめしなから
よにかくれていてさせたまへりかねてさる御せうそこもなくてにはかにかくわ
たりおはしまいたれはあるしの院おとろきかしこまりきこえ給世中をかへりみ
すましう思はへりしかとなをまとひさめかたきものはこのみちのやみになむ侍
りけれはをこなひもけたいしてもしをくれさきたつみちのたうりのまゝならて
わかれなはやかてこのうらみもやかたみにのこらむとあちきなさにこのよのそ
しりをはしらてかくものし侍ときこえ給御かたちことにてもなまめかしうなつ

かしきさまにうちしのひやつれ給てうるわしき御ほうふくならすゝみそめの御すかたあらまほしうきよらなるもうらやましくみたてまつり給れいのまつなみたおとし給わつらひ給御さまことなる御なやみにも侍らすたゝ月ころよはり給へる御ありさまにはか　くしう物なともまいらぬつもりにやかく物したまふにこそなときこえ給かたわらいたきをましなれともとて御丁のまへに御しとねまいりていれたてまつり給宮をもとかう人　くつくろひきこえてゆかのしもにおろしたてまつる御木丁すこしをしやらせたまひてよゐかちそうなとの心ちすれとまたけむつくはかりのをこなひにもあらねはかたわらいたけれとたゝおほつかなくおほえ給らむさまをさなからみ給へきなりとて御めをしのこはせたまふ宮もいとよはけにない給ていくへうもおほえ侍らぬをかくおはしまいたるついてにあまになさせ給てよときこえ給さる御ほいあらはいとたうときことなるをさすかにかきらぬいのちのほとにてゆくすゑとをき人はかへりてことのみたれあり世の人にそしらるゝやうありぬへきなとの給はせておとゝの君にかくなむすゝみのたまふをいまはかきりのさまならはかた時のほとにてもそのたすけあるへきさまにてとなむ思たまふるとのたまへはひころもかくなむのたまへとさけなとの人の心たふろかしてかゝるかたにてすゝむるやうもはへなるをとてきゝもいれ侍らぬなりときこえ給ものゝけのおしへにてもそれにまけぬとてあしかるへきことならはこそはゝからめよはりにたる人のかきりとて物し給はむことをきゝすくさむはのちのくい心くるしうやとの給御心のうちかきりなううしろやすくゆつりをきし御ことをうけとりたまひてさしも心さしふかゝらすわかおもふやうにはあらぬ御けしきをことにふれつゝとしころきこしめしおほしつめけることいろにいてゝうらみきこえ給へきにもあらねはよの人の思いふらむところもくちおしうおほしわたるにかゝるおりにもてはなれなむもなにかは人わらへによをうらみたるけしきならてさもあらさらむおほかたのうしろみにはなをたのまれぬへき御をきてなるをたゝあつけをきたてまつりししるしには思なしてにくけにそむくさまにはあらすとも御そうふんにひろくおもしろき宮たまはりたまへるをつくろひてすませたてまつらむわかおはしますよにさるかたにてもうしろめたからすきゝをき又かのおとゝもさいふともいとおろかにはよもおもひはなち給はしその心はえをもみはてむとおもほしとりてさらはかくものしたるついてにいむことうけ給はむをたにけちえんにせむかしとの給はすおとゝの君うしとおほすかたもわすれてこはいかなるへきことそとかなしくゝちおしけれはえたへ給はすうちにいりてなとかいくはくも侍ましき身をふりすて

ゝかうはおほしなりにけるなをしはし心をしつめたまひて御ゆまいりものなと
をもきこしめせたうときことなりとも御身よはうてはをこなゐもしたまひてん
やかつはつくろひ給てこそときこえ給へとかしらふりていとつらうのたまふと
おほしたりつれなくてうらめしとおほすこともありけるにやとみたてまつりた
まふにいとおしうあはれなりとかくきこえかへさむおほしやすらふほとによあ
けかたになりぬかへりいらむにみちもひるはゝしたなかるへしといそかせ給て
御いのりに候なかにやむことなうたうときかきりめしいれて御くしおろさせ給
いとさかりにきよらなる御くしをそきすてゝいむことうけ給さほうかなしうく
ちおしけれはおとゝはえしのひあへ給はすいみしうない給院はたもとよりとり
わきてやむことなう人よりもすくれてみたてまつらむとおほしゝをこの世には
かひなきやうにないたてまつるもあかすかなしけれはうちしほたれ給かくても
たひらかにておなしうはねむすをもつとめたまへときこえをき給てあけはてぬ
るにいそきていてさせたまひぬ宮はなをよはうきえいるやうにし給てはか　く
しうもえみたてまつらすものなともきこえたまはすおとゝもゆめのやうに思
たまへみたるゝ心まとひにかうむかしおほえたるみゆきのかしこまりをもえ御
らむせられぬらうかはしさはことさらにまいり侍りてなむときこえ給御をくり
に人　くまいらせ給世中のけふかあすかにおほえ侍りしほとに又しる人もなく
てたゝよはむことのあはれにさりかたうおほえはへしかは御ほいにはあらさり
けめとかくきこえつけてとしころは心やすく思たまへつるをもしもいきとまり
侍らはさまことにかはりて人しけきすまゐはつきなかるへきをさるへき山さと
なとにかけはなれたらむありさまも又さすかに心ほそかるへくやさまにしたか
ひてなをおほしはなつましくなときこえ給へはさらにかくまておほせらるゝな
むかへりてはつかしう思たまへらるゝみたり心ちとかくみたれ侍てなにことも
えわきまへはへらすとてけにいとたえかたけにおほしたりこやの御かちに御物
のけいてきてかうそあるよいとかしこうとりかへしつとひとりをはおほしたり
しかいとねたかりしかはこのわたりにさりけなくてなむ日ころさふらひつるい
まはかへりなむとてうちわらふいとあさましうさはこの物のけのこゝにもはな
れさりけるにやあらむとおほすにいとおしうくやしうおほさる宮すこしいきい
て給やうなれとなをたのみかたけにみえ給さふらふ人　くもいといふかひなう
おほゆれとかうてもたひらかにたにおはしまさはとねむしつゝみすほう又のへ
てたゆみなくをこなはせなとよろつにせさせたまふかのゑもんのかみはかゝる
御ことをきゝ給にいとゝきえいるやうにし給てむけにたのむかたすくなうなり

給にたり女宮のあはれにおほえたまへはこゝにわたりたまはむことはいまさらにかる　くしきやうにもあらむをうへもおとゝもかくつとそひおはすれはをのつからとりはつしてみたてまつり給やうもあらむにあちきなしとおほしてかの宮にとかくしていまひとたひまうてむとのたまふをさらにゆるしきこえ給はすたれにもこの宮の御ことをきこえつけ給はしめよりはゝみやす所はおさ　く心ゆきたまはさりしをこのおとゝのみたちねむころにきこえ給て心さしふかゝりしにまけ給て院にもいかゝはせむとおほしゆるしけるを二品宮の御ことおもほしみたれけるついてに中　くこの宮はゆくさきうしろやすくまめやかなるうしろみまうけ給へりとのたまはすときゝ給しをかたしけなう思いつかくてみすてたてまつりぬるなめりと思につけてはさま　くにいとおしけれと心よりほかなるいのちなれはたへぬちきりうらめしうておほしなけかれむか心くるしきこと御心さしありてとふらひ物せさせたまへとはゝうへにもきこえ給いてあなゆゝしをくれたてまつりてはいくはくよにふへき身とてかうまてゆくさきのことをはのたまふとてなきにのみなきたまへはえきこえやりたまはす右大弁の君にそおほかたのことゝもはくはしうきこえ給心はへのゝとかによくおはしつる君なれはおとうとのきみたちも又するゑ　くのわかきはおやとのみたのみきこえ給へるにかう心ほそうの給をかなしとおもはぬ人なくとのゝうちの人もなけくおほやけもおしみくちおしからせ給かくかきりときこしめしてにはかに権大納言になさせ給へりよろこひに思おこしていまひとたひもまいり給やうもやあるとおほしのたまはせけれとさらにえためらひやりたまはてくるしきなかにもかしこまり申給おとゝもかくをもき御をほえをみたまふにつけてもいよ　くかなしうあたらしとおほしまとふ大将の君つねにいとふかう思なけきとふらひきこえ給御よろこひにもまつまうてたまへりこのおはするたいのほとりこなたのみかとはむまくるまたちこみ人さわかしうさはきみちたりことしとなりてはをきあかることもおさ　くしたまはねはおも　くしき御さまにみたれなからはえたいめしたまはて思つゝよはりぬることゝ思にくちおしけれはなをこなたにいらせたまへいとらうかはしきさまにはへるつみはおのつからおほしゆるされなむとてふしたまへるまくらかみのかたにそうなとしはしいたし給ていれたてまつり給はやうよりいさゝかへたて給ことなうむつひかはし給御中なれはわかれむことのかなしうこひしかるへきなけきおやはらからの御思にもをとらすけふはよろこひとて心ちよけならましをとおもふにいとくちおしうかひなしなとかくたのもしけなくはなり給にけるけふはかゝる御よろこひにいさゝかすくよかにもや

とこそ思侍つれとて木丁のつまひきあけたまへれはいとくちおしうその人にもあらすなりにてはへりやとてえほうしはかりおしいれてすこしおきあからむとし給へといとくるしけなりしろきゝぬとものなつかしうなよゝかなるをあまたかさねてふすまひきかけてふしたまへりおましのあたり物きよけにけはひかうはしう心にくゝそすみなしたまへるうちとけなからようゐありとみゆをもくわつらひたる人はをのつからかみひけもみたれものむつかしきけはひもそふわさなるをやせさらほひたるしもいよ　くしろうあてなるさましてまくらをそはたてゝものなときこえ給けはひいとよはけにいきもたえつゝあはれけなりひさしうわつらひたまへるほとよりはことにいたうもそこなはれたまはさりけりつねの御かたちよりも中　くまさりてなむみえ給とのたまふものからなみたをしのこひてをくれさきたつへたてなくとこそちきりきこえしかいみしうもあるかなこの御心ちのさまをなにことにてをもり給とたにえきゝわき侍らすかくしたしきほとなからおほつかなくのみなとの給に心にはをもくなるけちめもおほえ侍らすそこ所とくるしきこともなけれはたちまちにかうも思たまへさりしほとに月日もへてよはり侍にけれはいまはうつし心もうせたるやうになんおしけなき身をさま　くにひきとゝめらるゝいのりくわんなとのちからにやさすかにかゝつらふも中　くくるしう侍れは心もてなむいそきたつ心ちしはへるさるはこのよのわかれさりかたきことはいとおほうなむおやにもつかうまつりさしていまさらに御心ともをなやまし君につかうまつることもなかはのほとにて身をかへりみるかたはたましてはか　くしからぬうらみをとゝめつるおほかたのなけきをはさる物にて又心のうちに思給へみたるゝことの侍をかゝるいまはのきさみにてなにかはもらすへきと思はへれとなをしのひかたきことをたれにかはうれへ侍らむこれかれあまたものすれとさま　くなることにてさらにかすめはへらむもあいなしかし六てうの院にいさゝかなることのたかひめありて月ころ心のうちにかしこまり申すことなむはへりしをいとほいなう世中心ほそう思なりてやまゐつきぬとおほえはへしにめしありて院の御かのかくその心みのひまいりて御けしきをたまはりしになをゆるされぬ御心はへあるさまに御ましりをみたてまつりはへりていとゝよになからへむこともはゝかりおほうおほえなり侍りてあちきなう思たまへしに心のさはきそめてかくしつまらすなりぬるになむ人かすにはおほしいれさりけめといはけなうはへし時よりふかくたのみ申す心の侍しをいかなるさうけんなとのありけるにかとこれなむこのよのうれへにてのこり侍へけれはろなうかのゝちのよのさまたけにもやと思給ふるをことのつ

いてはへらは御みゝとゝめてよろしうあきらめ申させたまへなからむうしろにもこのかうしゆるされたらむなむ御とくにはへるへきなとの給まゝにいとくるしけにのみゝえまされはいみしうて心のうちに思あはすることゝもあれとさしてたしかにはえしもおしはからすいかなる御心のおにゝかはさらにさやうなる御けしきもなくかくをもりたまへるよしをもきゝおとろきなけきたまふことかきりなうこそくちおしかり申給めりしかなとかくおほすことあるにてはいまゝてのこいたまひつらむこなたかなたあきらめ申へかりけるものをいまはいふかひなしやとてとりかへさまほしうかなしくおほさるけにいさゝかもひまありつるおりきこえうけ給はるへうこそはへりけれされといとかうけふあすとしもやはと身つからなからしらぬいのちのほとを思ひのとめはへりけるもはかなくなむこのことはさらに御心よりもらし給ましさるへきついて侍らむおりには御ようゐくはへたまへとてきこえをくになむ一条にものし給宮ことにふれてとふらひきこえたまへ心くるしきさまにて院なとにもきこしめされたまはむをつくろひたまへなとの給いはまほしきことはおほかるへけれと心ちせむかたなくなりにけれはいてさせたまひねとてかきゝこえたまふかちまいるそうともちかうまいりうへおとゝなとおはしあつまりて人　くもたちさはけはなく　くいて給ぬ女御をはさらにもきこえすこの大将の御かたなともいみしうなけき給心おきてのあまねく人のこのかみ心にものしたまひけれは右の大とのゝきたのかたもこのきみをのみそむつましきものに思きこえ給けれはよろつに思なけき給て御いのりなとゝりわきてせさせ給けれとやむくすりならねはかひなきわさになむありける女宮にもつゐにえたいめしきこえたまはてあわのきえいるやうにてうせ給ぬとしころしたの心こそねむころにふかくもなかりしかおほかたにはいとあらまほしくもてなしかしつきゝこえてけなつかしう心はへおかしうゝちとけぬさまにてすくい給けれはつらきふしもことになしたゝかくみしかゝりける御身にてあやしくなへての世すさましう思給へけるなりけりと思いてたまふにいみしうておほしいりたるさまいと心くるし宮す所もいみしう人わらへにくちおしとみたてまつりなけき給ことかきりなしおとゝきたのかたなとはましていはむかたなくわれこそさきたゝめ世のことはりなうつらいことゝこかれたまへとなにのかひなしあま宮はおほけなき心もうたてのみおほされて世になかゝれとしもおほさゝりしをかくなむときゝ給はさすかにいとあはれなりかしわか君の御ことをさそとおもひたりしもけにかゝるへきちきりにてや思のほかに心うきこともありけむとおほしよるにさま　くもの心ほそうてうちなかれ給ぬやよひに

なれはそらのけしきもゝのうらゝかにてこの君いかのほとになり給ていとしろうゝつくしうほとよりはおよすけて物かたりなとし給おとゝわたり給て御心ちはさはやかになりたまひにたりやいてやいとかひなくもはへるかなれいの御ありさまにてかくみなしたてまつらましかはいかにうれしう侍らまし心うくおほしすてけることゝなみたくみてうらみきこえ給ひゝにわたり給ていましもやむことなくかきりなきさまにもてなしきこえ給御いかにもちゐまいらせたまはむとてかたちことなる御さまを人　くいかになときこえやすらへと院わたらせたまひてなにか女に物し給はゝこそおなしすちにていま　くしくもあらめとてみなみおもてにちゐさきおましなとよそひてまいらせ給御めのといとはなやかにさうそきて御前の物いろ　くをつくしたるこ物ひわりこの心はへともをうちにもとにも本の心をしらぬことなれはとりちらしなに心もなきをいと心くるしうまはゆきわさなりやとおほす宮もおきゐ給て御くしのするのところせうひろこりたるをいとくるしとおほしてひたいなとなてつけておはするに木丁をひきやりてゐ給へはいとはつかしうてそむきたまへるをいとゝちひさうほそり給て御くしはをしみきこえてなかうそきたりけれはうしろはことにけちめもみえたまはぬほとなりすき　くみゆるにひいろともきかちなるいまやういろなとき給てまたありつかぬ御かたはらめかくてしもうつくしきこともの心ちしてなまめかしうおかしけなりいてあな心うすみそめこそなをいとうたてめもくるゝいろなりけれかやうにてもみたてまつることはたゆましきそかしと思なくさめはへれとふりかたうわりなき心ちするなみたの人わろさをいとかう思すてられたてまつる身のとかに思なすもさま　くにむねいたうくちおしくなむとりかへす物にもかなやとうちなけきたまひていまはとておほしはなれはまことに御心といとひすて給けるとはつかしう心うくなむおほゆへきなをあはれとおほせときこえたまへはかゝるさまの人は物のあはれもしらぬものときゝしをましてもとよりしらぬことにていかゝはきこゆへからむとのたまへかひなのことやおほしゝるかたもあらむ物をとはかりの給さしてわか君をみたてまつり給御めのとたちはやむことなくめやすきかきりあまたさふらふめしいてゝつかうまつるへき心をきてなとの給あはれのこりすくなき世におひいつへき人にこそとていたきとりたまへはいと心やすくうちゑみてつふ　くとこえてしろうゝつくし大将なとのちこおひほのかにおほしいつるにはに給はす女御の御宮たちはたちゝみかとの御かたさまにわうけつきてけたかうこそおはしませことにすくれてめてたうしもおはせすこの君いとあてなるにそへてあい行つきまみのかをりてゑかちなる

なとをいとあはれとみ給思なしにやなをいとようおほえたりかしたゝいまなからまなこゐのゝとかにはつかしきさまもやうはなれてかをりおかしきかをさまなり宮はさしもおほしわかす人はたさらにしらぬことなれはたゝひとゝころの御心のうちにのみそあはれはかなかりける人のちきりかなとみ給におほかたの世のさためなさもおほしつゝけられてなみたのほろ　くとこほれぬるをけふはこといみすへき日をとをしのこひかくし給しつかに思てなけくにたへたりとうちすうしたまふ五十八をとおとりすてたる御よはひなれとすゑになりたる心ちし給ていと物あはれにおほさる汝かちゝにともいさめまほしうおほしけむかしこのことの心しれる人女はうの中にもあらむかししらぬこそねたけれおこなりとみるらんとやすからすおほせとわか御とかあることはあへなむふたついはむには女の御ためこそいとおしけれなとおほしていろにもいたしたまはすいとなに心なう物かたりしてわらひ給へるまみくちつきのうつくしきも心しらさらむ人はいかゝあらむなをいとよくにかよひたりけりとみ給におやたちのこたにあれかしとない給らむにもえみせす人しれすはかなきかたみはかりをとゝめをきてさはかり思あかりおよすけたりし身を心もてうしなひつるよとあはれにおしけれはめさましとおもふ心もひきかへしうちなかれ給ぬ人　くすへりかくれたるほとに宮の御もとによりたまひてこの人をはいかゝみ給やかゝる人をすてゝそむきはてたまひぬへき世にやありけるあな心うとおとろかしきこえ給へはかほうちあかめておはす

　たかよにかたねはまきしと人とはゝいかゝいはねのまつはこたへむあはれなりなとしのひてきこえ給に御いらへもなうてひれふしたまへりことはりとおほせはしゐてもきこえ給はすいかにおほすらむものふかうなとはおはせねといかてかはたゝにはとおしはかりきこえ給もいと心くるしうなむ大将のきみはかの心にあまりてほのめかしいてたりしをいかなることにかありけむすこし物おほえたるさまならましかはさはかりうちいてそめたりしにいとようけしきはみてましをいふかひなきとちめにておりあしういふせくてあはれにもありしかなとおもかけわすれかたうてはらからの君たちよりもしゐてかなしとおほえ給けり女宮のかく世をそむきたまへるありさまおとろ　くしき御なやみにもあらてすかやかにおほしたちけるほとよ又さりともゆるしきこえ給へきことかは二条のうへのさはかりかきりにてなく　く申給ときゝしをはいみしきことにおほしてつゐにかくかけとゝめたてまつりたまへるものをなとゝりあつめて思くたくになをむかしよりたえすみゆる心はへえしのはぬおり　くありきかしいとよう

もてしつめたるうはへは人よりけにようゐありのとかになにことをこの人の心のうちに思らむとみるひともくるしきまてありしかとすこしよはきところつきてなよひすきたりしけそかしいみしうともさるましきことに心をみたりてかくしもみにかふへきことにやはありける人のためにもいとおしうわか身はいたつらにやなすへきさるへきむかしのちきりといひなからいとかる　くしうあちきなきことなりかしなと心ひとつに思へとをむな君にたにきこえいてたまはすさるへきついてなくて院にもまたえ申給はさりけりさるはかゝることをなむかすめしと申いてゝ御けしきもみまほしかりけりちゝおとゝはゝきたのかたはなみたのいとまなくおほしゝつみてはかなくすくるひかすをもしり給はす御わさのほうふく御さうそくなにくれのいそきをも君たち御かた　くとり　くになむせさせ給ける経仏のをきてなとも右大弁の君せさせ給七日　くの御す行なとを人のきこえおとろかすにもわれになきかせそかくいみしと思まとふに中　くみちさまたけにもこそとてなきやうにおほしほれたり一条の宮にはましておほつかなうてわかれたまひにしうらみさへそひて日ころふるまゝにひろき宮のうち人けすくなう心ほそけにてしたしくつかひならし給し人はなをまいりとふらひきこゆこのみ給したかむまなとそのかたのあつかりともゝみなつくところなう思うしてかすかにいているをみ給もことにふれてあはれはつきぬものになむありけるもてつかひたまひし御てうとゝもつねにひき給しひわゝこむなとのをもとりはなちやつされてねをたてぬもいとむもれいたきわさなりや御前のこたちいたうけふりて花は時をわすれぬけしきなるをなかめつゝ物かなしくさふらふ人　くもにひいろにやつれつゝさひしうつれ　くなるひるつかたさきはなやかにをふをとしてこゝにとまりぬる人ありあはれこ殿の御けはひとこそうちわすれては思つれとてなくもあり大将とのゝおはしたるなりけり御せうそこきこえいれたまへりれいの弁の君さい将なとのおはしたるとおほしつるをいとはつかしけにきよらなるもてなしにていり給へりもやのひさしにおましよそひていれたてまつるをしなへたるやうに人　くのあへしらひきこえむはかたしけなきさまのし給へれはみやす所そたいめし給へるいみしきことを思給へなけく心はさるへき人　くにもこえてはへれとかきりあれはきこえさせやるかたなうてよのつねになり侍りにけりいまはのほとにものたまひをくことはへりしかはをろかならすなむたれものとめかたきよなれとをくれさきたつほとのけちめには思たまへをよはむにしたかひてふかき心のほとをも御らむせられにしかなとなむ神わさなとのしけきころほひわたくしの心さしにまかせてつく　くとこもりゐはへ

らむもれいならぬことなりけれはたちなからはた中　くにあかす思給へらるへうてなむ日ころをすくし侍りにけるおとゝなとの心をみたりたまふさまみきゝ侍につけてもおやこのみちのやみをはさる物にてかゝる御なからひのふかく思とゝめたまひけむほとをゝしはかりきこえさするにいとつきせすなむとてしは　くをしのこひはなうちかみたまふあさやかにけたかき物からなつかしうなまめいたりみやす所もはなこゑになりたまひてあはれなることはそのつねなきよのさかにこそはいみしとても又たくひなきことにやはとゝしつもりぬる人はしゐて心つようさましはへるをさらにおほしいりたるさまのいとゆゝしきまてしはしもたちをくれたまふましきやうにみえ侍れはすへていと心うかりける身のいまゝてなからへはへりてかくかた　くにはかなきよのすゑのありさまをみ給へすくすへきにやといとしつ心なくなむをのつからちかき御なからひにてきゝをよはせ給やうもはへりけむはしめつかたよりおさ　くうけひきゝこえさりし御ことをおとゝの御心むけも心くるしう院にもよろしきやうにおほしゆるいたる御けしきなとのはへしかはさらは身つからの心をきてのをよはぬなりけりと思給へなしてなむみたてまつりつるをかくゆめのやうなることをみたまふるに思給へあはすれは身つからの心のほとなむおなしうはつようもあらかひきこえましをと思はへるになをいとくやしうそれはかやうにしもおもひよりはへらさりきかしみこたちはおほろけのことならてあしくもよくもかやうによつき給こととはえ心にくからぬことなりとふるめき心には思侍しをいつかたにもよらすなかそらにうき御すくせなりけれはなにかはかゝるついてにけふりにもまきれ給なむはこの御身のための人きゝなとはことにくちおしかるましけれとさりとてもしかすくよかにえ思しつむましうかなしうみたてまつり侍るにいとうれしうあさからぬ御とふらひのたひ　くになり侍めるをありかたうもときこえはへるもさらはかの御ちきりありけるにこそはと思やうにしもみえさりし御心はへなれといまはとてこれかれにつけをき給ひける御ゆいこんのあはれなるになむうきにもうれしきせはましり侍りけるとていとうない給けはひなり大将もとみにえためらひ給はすあやしういとこよなくをよすけたまへりし人のかゝるへうてやこの二三ねんのこなたなむいたうしめりて物心ほそけにみえ給しかはあまり世のことはりをおもひしりものふかうなりぬる人のすみすきてかゝるためし心うつくしからすかへりてはあさやかなるかたのおほくうすらくものなりとなむつねにはか　くしからぬ心にいさめきこえしかは心あさしと思たまへりしよろつよりも人にまさりてけにかのおほしなけくらむ御心のうちのかたしけな

けれといと心くるしうも侍るかなゝとなつかしうこまやかにきこえ給てやゝほとへてそいて給かの君は五六年のほとのこのかみなりしかとなをいとわかやかになまめきあいたれてものし給しこれはいとすくよかにおも　くしくをゝしきけはひしてかほのみそいとわかうきよらなること人にすくれたまへるわかき人　くはものかなしさもすこしまきれてみいたしたてまつる御前ちかきさくらのいとおもしろきをことしはかりはとうちおほゆるもいま　くしきすちなりけれはあひみむことはとくちすさひて

　時しあれはかはらぬいろにゝほひけりかたえかれにしやとのさくらもわさとならすゝしなしてたち給にいとゝう

　この春はやなきのめにそたまはぬくさきちる花のゆくゑしらねはときこえ給いとふかきよしにはあらねといまめかしうかとありとはいはれ給しかういなりけりけにめやすきほとのよういなめりとみ給ちしの大殿にやかてまいり給へれは君たちあまたものし給けりこなたにいらせたまへとあれはおとゝの御いてゐのかたにいり給へりためらひてたいめんし給へりふりかたうきよけなる御かたちいたうやせおとろへて御ひけなともとりつくろゐたまはねはしけりてをやのけうよりもけにやつれ給へりみたてまつり給よりいとしのひかたけれはあまりにをさまらすみたれおつるなみたこそはしたなけれと思へはせめてそもてかくし給おとゝもとりわきて御中よくものしたまひしをとみ給にたゝふりにふりおちてえとゝめ給はすつきせぬ御ことゝもをきこえかはし給一条の宮にまてたりつるありさまなときこえ給いとゝしう春さめかとみゆるまてのきのしつくにことならすぬらしそへ給たゝむかみにかのやなきのめにそとありつるをかい給へるをたてまつりたまへはめもみえすやとをしゝほりつゝみ給うちひそみつゝそみ給御さまれいは心つようあさやかにほこりかなる御けしきなこりなく人わろしさるはことなることなかめれとこのたまはぬくとあるふしのけにとおほさるゝに心みたれてひさしうえためらひたまはす君の御はゝ君のかくれたまへりし秋なむよにかなしきことのきはにはおほえ侍りしを女はかきりありてみる人すくなうとあることもかゝることもあらはならねはかなしひもかくろへてなむありけるはか　くしからねとおほやけもすて給はすやう　く人となりつかさくらゐにつけてあひたのむ人　くをのつからつき　くにおほうなりなとしておとろきくちおしかるもるいにふれてあるへしかうふかきおもひはそのおほかたの世のおほえもつかさくらゐもおもほえすたゝことなることなかりし身つからのありさまのみこそたへかたくこひしかりけれなにはかりのことにてかおもひさ

ますへからむとそらをあふきてなかめ給ゆふくれのくものけしきにひいろにかすみてはなのちりたるこすゑともをもけふそめとゝめ給この御たゝむかみに

　このしたのしつくにぬれてさかさまにかすみのころもきたる春かな大将の君

　なき人も思はさりけむうちすてゝゆふへのかすみきみきたれとは弁君

　うらめしやかすみのころもたれきよとはるよりさきに花のちりけむ御わさなとよのつねならすいかめしうなむありける大将とのゝきたのかたをはさる物にてとのは心ことにす経なともあはれにふかき心はへをくはへ給かの一条の宮にもつねにとふらひきこえ給う月はかりのうのはなはそこはかとなう心ちよけにひとついろなるよものこすゑもおかしうみえわたるをもの思やとはよろつのことにつけてしつかに心ほそうくらしかねたまふにれいのわたり給へりにはもやう　くあおみいつるわかくさみえわたりこゝかしこのすなこうすきものゝかくれのかたによもきもところえかほなりせんさいに心いれてつくろひたまひしも心にまかせてしけりあひひとむらすゝきもたのもしけにひろこりてむしのねそへむ秋思やらるゝよりいと物あはれにつゆけくてわけいり給いよすかけわたしてにひいろのき丁のころもかへしたるすきかけすゝしけにみえてよきわらはのこまやかにゝはめるかさみのつまかしらつきなとほのみえたるおかしけれとなをめおとろかるゝいろなりかしけふはすのこにゐたまへはしとねさしいてたりいとかるらかなるをましなりとてれいの宮す所おとろかしきこゆれとこのころなやましとてよりふしたまへりとかくきこえまきらはすほとおまへのこたちとも思ことなけなるけしきをみ給もいと物あはれなりかしはきとかえてとのものよりけにわかやかなるいろしてえたさしかはしたるをいかなるちきりにかすゑあへるたのもしさよなとの給てしのひやかにさしよりて

　ことならはならしのえたにならさなむはもりの神のゆるしありきとみすのとのへたてあるほとこそうらめしけれとてなけしによりゐたまへりなよひすかたはたいといたうたをやきけるをやとこれかれつきしろふこの御あへしらひきこゆる少将の君といふ人して

　かしは木にはもりの神はまさすとも人ならすへきやとのこすゑかうちつけなる御ことのはになむあさう思給へなりぬるときこゆれはけにとおほすにすこしほおゑみたまひぬ宮す所ゐさりいて給けはひすれはやをらゐなおり給ぬうき世中を思給へしつむ月日のつもるけちめにやみたり心ちもあやしうほれ　くしうてすくし侍るをかくたひ　くかさねさせ給御とふらひのいとかたしけなきに

思給へおこしてなむとてけになやましけなる御けはゐなりおもほしなけくはよのことはりなれと又いとさのみはいかゝよろつのことさるへきにこそはへめれさすかにかきりある世になむとなくさめきこえ給この宮こそきゝしよりは心のおくみえ給へあはれけにいかに人わらはれなることをとりそへておほすらむと思もたゝならねはいたう心とゝめて御ありさまもとひきこえ給けりかたちそいとまほにはえ物し給ましけれといとみくるしうかたわらいたきほとにたにあらすはなとてみるめにより人をも思あき又さるましきに心をもまとはすへきそさまあしやたゝ心はせのみこそいひもてゆかむにはやむことなかるへけれとおもほすいまはなをむかしにおもほしなすらへてうとからすもてなさせ給へなとわさとけさうひてはあらねとねむころにけしきはみてきこえ給なおしすかたいとあさやかにてたけたちもの　くしうそろゝかにそみえ給けるかのおとゝはよろつのことなつかしうなまめきあてにあい行つき給へることのならひなきなりこれはをゝしうはなやかにあなきよらとふとみえ給にほひそ人にゝぬやとうちさゝめきておなしうはかやうにてもいていり給はましかはなと人　くいふめりいうしやうくんかつかにくさはしめてあおしとうちくちすさひてそれもいとちかきよのことなれはさま　くにちかうとをう心みたるやうなりし世中にたかきもくたれるもおしみあたらしからぬはなきもむへ　くしきかたをはさる物にてあやしうなさけをたてたる人にそものし給けれはさしもあるましきおほやけ人女はうなとのとしふるめきたるともさへこひかなしひきこゆるましてうへには御あそひなとのおりことにもまつおほしいてゝなむしのはせ給けるあはれゑもんのかみといふことくさなにことにつけてもいはぬ人なし六条の院にはましてあはれとおほしいつること月日にそへておほかりこのわか君を御心ひとつにはかたみとみなしたまへと人のおもひよらぬことなれはいとかひなし秋つかたになれはこのきみはゐさりなと